

## 2020（令和2）年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 令和2年8月21日（金）午後2時30分～
- 会場 音別町コミュニティセンター
- 出席者 16人

### 〔市長より説明（別途資料参照）〕

〇つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路

- ・釧路市の現状と課題
- ・2020（令和2）年度予算
- ・「釧路市まちづくり基本構想」重点戦略の推進（主な政策テーマ）
- ・新型コロナウイルス感染症対策関係
- ・日本海溝・千島海溝沿いの最大クラスの津波について

### ●質疑応答

#### 【参加者A】

市長からお話をいただきました社会減を抑える方策につきまして、我々農協としては、酪農家の減少を少なくし、新しい人材を入れることに心血を注いでおり、2年前に農協独自の対策を立てさせていただきました。また、それではまだ弱いとして、全道・全国に負けないだけの支援策を打ち出すよう、取り組みを始めたところでもあります。

そこで、起業はなかなか難しいので、今ある産業をどのように育てていくかということが大事だと思います。そうしたときに、酪農をこれ以上減らさない、あるいは増やしていくことが大事だと思います。特に酪農は、イニシャルコストが莫大に掛かり、新規就農も難しい状況であり、あわせて、今回の新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、農業に何とか新しい人を迎え入れたいということでもありますので、農協としても新しい対策をさらに作ろうと思っております。そこで、行政の方にも上乘せをしていただける方策を早急に考えていただけないかと思っております。

#### 【市長】

食の分野は、強いものであると確信をしております。食べられなければ、人は死んでしまいます。日本のカロリーベースでの食料自給率は1%上がって38%であります。また、生産額ベースの食料自給率もありますが、こちらについては、おかしいものと思っております。例えば、生きるか死ぬかの時に「ブランドの果物」を食べて生きていくというのは違うと思っております。やはり、食料自給率の見方は、カロリーベースであって単価の高いものではありません。問題は、カロリーをどのように満たすかが極めて重要でありますので、根本的にカロリーベースの中で、農業を考えていくものだと考えております。その中で、北海道の強み、この地域の強みは、安全安心ということですから。これからは安全安心のものが、間違いなく求められてくると思っておりますし、農業関係の方々と話していくときに「これから先々、あなたは遺伝子組み換え食品を食べますか？自然のものを食べますか？このような時代が来ることを想定し、安全安心なしっかりとしたものを作っているということが強みになってくる」という話をしております。このことを、しっかりと対応していきたいと考えております。

ただ、イニシャルコストの話は、おっしゃる通り問題であると思っております。また、そこにあわせて働き方改革として、労働力の少量化を進めていながら、

稼ぐという形に繋げていくものであると思っております。ぜひともこのような分野で丹頂農協様とまた連携できることがあれば、スポットの対応のものと長期的な対応のものについて、相談しながら進めていきたいと思っております。

景気対策は、スポット対策が多いです。しかし、私は、長期的展望、先々の見通しを示すことが最大の景気対策だと思います。例えば、10年20年後の状況が分かれば、様々なところが安心できると思っております。今年は良いが、来年、再来年といった見通しのところで、皆様の踏ん切りがつかないところもあるかと思っております。そこで、「根釧酪農ビジョン」という将来像の中で、しっかり所得の増額として、高所得・新規就農の数字を掲げております。そこを見据えながら、一緒に連携できることがあれば、しっかり相談しながらやっていきたいと思っております。

#### 【参加者A】

期待しておりますので、どうぞよろしく申し上げます。早速、農協としては、具体的な数字を示しながら、新規就農者の呼び込みに入りたいと思っておりますので、どうか市の方にもバックアップしていただけるような体制を、早急に作っていただきたいと思っております。

もう一点お願いがあります。まちの人口を減らさない、そして新たに入ってくる人が魅力的に感じ、生活する上でなくてはならないものが、生活インフラであると思っております。店やガソリンスタンドは、絶対なくてはならない存在です。ただ、残念ながら、当農協で運営している店やガソリンスタンドは、非常に数字的に厳しい状況であります。本来、経済団体であるため、赤字であれば撤退しなければだめですが、農協として地域のためという使命を持っておりますので、現在、頑張っ続けております。お店についても、新しい形でオープンをさせていただいております。高齢化が進む中、今までやってきたことをなるべく続けながら、コストのかからない店舗やガソリンスタンドの運営をしていきたいのですが、やはり、農協単独では、難しい部分が多々あります。例えば、どうしても店に来られない人達のためには、配達もしなければいけません。そうなりますとコストが掛かりますが、コストも掛けられない状況にあります。やはり、ここの部分は、行政の役割だと思います。我々もできる限り頑張りますが、数字的に厳しいところまで追い込まれると、撤退という事態になります。そうなりますと、今ここに住まわれている方や新たに来ようとしている方も、そこに店やガソリンスタンドがなければ、生活環境としては理解されません。農協としては、最大限努力をさせていただきますが、やはり、行政から何らかの支援をいただければ、継続できる可能性が十分ありますので、ご理解ご協力をいただければと思っております。

#### 【市長】

まさしく、先程「まちづくり基本構想」でお話しした、域内連関という、それぞれが関心を持ちながら進めていくことが重要であるという話に繋がってくると思っております。今まで整理整頓をして、この分野は行政、この部分は民間という形で分けておりましたが、域内連関というものは、面としてそれぞれ関心を持ちながら繋がっていることを認識し、それぞれが支えあっている状況が大切であると考えております。今まで、生活インフラの話は、伺ったことがありませんでしたので、これからしっかりとお話をしていきながら、情報を密にして進めていきたいと思っております。

### 【参加者B】

先日、北海道新聞に掲載されておりましたが、音別の人口が約1,700人ということで、合併当時から1,000人ぐらい減少しているということです。先程の話でもありましたが、農協では、実習生や新規就農を目指している夫婦を雇っております。行政センターへ伺った際に、北海道のこの地域の公営住宅の金額は、都会から見たら安いのですが、定住するアパートの関係で、何らかの住みやすい料金という話を行政の方にしても、料金は全国统一されているという話しでした。やはり、所得が上がってこない低所得の若い人たちにとっては、少しでも家賃を安くするなど、優遇処置を講じてもらえれば、色々な形で音別地区に定住すると思います。音別には、保育所から全て整っており、小学生が37人、複式学級や先生方もいらっしゃるのに、若い人が定住しないのであれば、当然、子供たちも学校にいないということになります。お年寄りの方も、病気がちになると、釧路の方に通院することが大変だとして、移ってしまいます。そうすると、飛び地で合併しても、この地域から人口が減っていくという状況が、今後も続きます。せっかく大塚製菓などの企業誘致が、前町長の時代にあったのですが、今でも優良企業として大塚製菓がありながら、そこで働く若い人は、釧路市内に家を建てる状況があります。私は、この地域そのものを一律の事で括るのではなく、音別特区にして、アパートや税金を安くするというのもいいと思いますが、何かそういうものを仕掛けないと、そのような人たちが住むということが難しいと思います。ぜひとも、色々なアイデアを出し合って、この地域に少しでも多く定住していただき、活性化を図っていただきたいと思います。人がいれば、経済の流れも生まれていき、活性化していくと思いますので、今までのものに、とらわれない構想で考えてみてはどうでしょうか。

### 【市長】

特区というお話もありますが、市営住宅の部分については、色々と変えてきております。これまでは、福祉政策からスタートしており、所得制限など困った方々という形になっておりました。そうしたことにより、住宅の困窮度という所得ベースや高齢者の方々の関係で進めていくことが多かったことから、その方々が入る方が多い状況となっております。そこで、逆に若い世代、つまり、結婚し、子育てをしている方々が、より入ることができる別枠を取りながら、市の住宅の順番を取るよう、今、進めているところであります。若い方々は、所得が上がっていない状況ではありますが、困窮度となると、やはりご高齢の方が多くなってしまいます。今、音別の実態として、全体の数字を押さえておりませんが、そのような取り組みを行いながら、入居できる形を進めているところであります。まさに、アパートや民間の物件が無く、先程、お伝えしたとおり、一定の所得がある方が入れないという中で、駅前の旧役場跡に住居を建てていくところでありますが、ここが完成し、どのような形でできるのかについて、民間との連携も考えられます。住宅施策に関しては、私どもも課題として持っておりますので、色々相談したいと考えているところであります。住宅そのものが、そのような形から来ていることをご理解いただき、そこから考えられることは、色々進めているところであります。その上で、特区的に実施していくことができるのかということになります。ここは、本当に難しいことであると思っております。

10年程前に、釧路太田農協の前会長から、とある会合の中で、この音別が「根釧酪農のメッカ」というお話を伺って、音別がそこから進めてきたという歴史を聞き、この地域の酪農に、どのような形で行政も連携して進めていけばよいか相談していきましようというお話をしたところでもあります。ただ、農業というものは、まず農林水産省と事業展開をしていく形であり、なかなか地方自治体と一緒に進めていく部分が、全道の中で少ない状況ではないかと思っています。まさしく、ここをこれからどのような形の中で進めていこうかということが、課題であると考えております。まずは、しっかり産業界の方で、どのようなことを進めていくかということでもあります。我々も、そちらで進めていただいているので、何かあればという距離感があったかと思いますが、その距離感をどのように詰めていくかということでもあります。先程お伝えした域内連携、まさしくそれぞれのところが成り立っていかなければ、地域が成り立たないこととなります。地域が成り立たなければ、それぞれ全部の存在意義が断たれるということ踏まえた上で、もっと関心を持っていきながら、我々は行政体でありますので、色々と知恵を出していきながら、進めていくことが重要であると考えております。そこを相談しながら、どのようにできるかを考えていきたいと思っております。

#### 【参加者C】

新型コロナウイルス感染症によって、森林情勢も厳しい状況になっております。上期は、補助事業があり良かったのですが、これから秋にかけての皆伐ができない状況であります。そこで、何とか知恵を出していかなければ、現場で働いている下請けの人たちの仕事がなくなってしまいます。今のところは、行政の職員の方々と当組合の職員が意見を交わしながら、色々な対策を考えておりますが、森林組合の大口の市の市有林と農協の山の管理、民有林が三本柱でありますので、そこを十分に組んで、年明けに向かっております。ただ、新型コロナウイルスが収まったとしても、林業は、50年という長いスパンをかけて仕事をしていかなければいけませんので、途中で切られてしまうと、繋がっていかないことになってしまいますので、これからも市の職員や農協の職員と意見交換をしながら事業を進めていきたいと思っておりますが、市長に積極的な関与をしていただき、対策を練って欲しいと思っております。

#### 【市長】

これから、それぞれの分野の中で、どのようなことが起きてくるのかを考えていく時であると思っております。新型コロナウイルスの収束については、何年掛かるのかという思いでありますので、コロナ禍でできることをしっかり考えていかなければならないと思っております。森林につきましては、市の面積の74%が森林であり、音別は特に森林に熟知している方が多くおりましたが、残念ながら旧釧路市の方が、森林行政に疎い状況でありました。そこで、北海道に相談し、エース級の職員の方に、11年連続で釧路に来ていただいております。この思いとしては、森林の生産地と消費地である市内地をうまく連携できるところであります。産地が取り組むことはもちろんですが、連携して取り組めることができるのは、釧路市であろうということで、取り組みを行っております。これから、どのようなところへ繋げていくのか、特に50年というスパンでありますから、様々な制度を用い、事業づくりについて、早急に対処で

きるようにしていきたいと考えておりますので、色々と教えていただきたいと  
思います。